

令和5年度 京都市立芸術大学評価委員会（第3回） 会議録

△事務局 ただ今から、令和5年度第3回公立大学法人京都市立芸術大学評価委員会を開催いたします。

委員の皆様方におかれましては御多忙のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様、京都市及び大学の出席者の紹介については、委員名簿と席次表の配布に代えさせていただきます。

次に、本委員会の公開についてです。本市では、京都市市民参加推進条例第7条において、審議会等を原則公開することが定められております。このため、本会議についても、公開としております。

また、本評価委員会の定足数の関係ですが、会議に必要な定足数である委員の過半数を満たしていることを御報告いたします。

なお、会議録につきましては、発言者の氏名を伏せた上で、文化市民局のホームページ上で公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をお願いいたします。次第にも記載しておりますとおり、資料1、参考資料1～8を御用意しております。過不足等がございましたら事務局までお申しつけください。

これから先の議事進行につきましては委員長にお願いしたいと存じます。委員長よろしくお願いいたします。

●委員長 では、議事を進めてまいります。限られた時間ですので、円滑な議事進行に御協力いただきますようお願いいたします。

議題は、「第3期中期計画案」でございます。

第3期中期計画については、今年6月に骨子をお示しし、御意見をいただきましたが、本日は、それを踏まえて作成された第3期中期計画案について御議論いただきたいと思います。

まず、法人から、計画案全体について、御説明をお願いいたします。

○大学法人 皆様、本学の新しい校舎においでいただきありがとうございます。計画案の前に、10月2日からの新キャンパスでの様子を少し説明しておきたいと思っております。

8月末に今いるこのD棟、及びこの周辺のA～C棟の引き渡しがあり、その後引っ越し作業を1ヶ月で終えなければならず、最後までどうなることかと心配しましたが、教職員、学生、そして文化市民局の皆様の御尽力ですべて完了しました。授業開始も遅れることなく、事故、怪我なく完了したことに心より感謝

申し上げたいと思います。

またお忙しい中10月1日のオープニングセレモニーにお越しいただいた評価委員の皆様には心から感謝申し上げます。

新キャンパスでは様々な取組がすでに始まっており、例えば11月2日に堀場信吉記念ホールのこけら落としコンサートを実施しました。定員を超える申し込みをいただき、倍率が10倍ということで、大好評でした。

11月4日から6日は学園祭(芸大祭)が行われ、3週間ほどの準備期間で、地域の人たちに楽しんで欲しいという思いで学生たちが頑張ってくれました。これも沓掛時代の入場者を大幅に超える皆様にお越しいただき、大盛況でした。

ギャラリー@KCUAでは、12月16日から、本学卒業生で、国内外で活躍している気鋭の美術家である久門剛史氏による「Dear Future Person、」が開催されています。

また、芸大通に面したプロジェクトルームでは、例えば交換留学生による作品展示や、博士課程の本審査のための大学院生の展示などが次々に行われ、通りがかった市民の皆様にも自由に観ていただいています。

さらに、芸大通に面した階段教室等を使った公開シンポジウムや伝統音楽研究センターの公開セミナー、音楽ホールを使った学生の公開試験なども頻繁に行われており、これも市民の皆様に入らせていただいています。

伊藤記念図書館も、沓掛ではあまり見られなかった市民の利用が増えてきています。

地元との関係については、10月15日に新キャンパスのグラウンドを使って崇仁地域の運動会があり、私たちも参加しました。また、11月4日には、柳原銀行記念資料館に隣接する広場を「崇仁テラス」と命名し、お披露目のセレモニーを行いました。他にも、11月下旬には東九条芸術祭があり、美術学部の学生の作品展示や音楽学部の学生の演奏で参加することができました。

10月以降、様々な取組がスタートできていますが、一方で、工事の手直しや引っ越し後に気が付いた様々な不具合もあります。また、グラウンドが狭く球技ができない、食堂や購買がないというような点を、卒業生や学生の御家族、マスコミ等からも指摘をされています。これからもどの案件にも1つ1つ向き合い、解決に向けて取り組んでいかなければならないと考えています。移転後の状況の報告は以上です。

続いて、第3期中期計画のポイントについて御説明させていただきます。第2期は移転に向けて取り組んできましたが、第3期はこの移転がスタートになります。テラスというキーワードのもと、2030年の創立150周年に向けて、京都のまちとともに、京都芸大の発展、充実を目指していきたいと思っております。詳しくは中期計画前文に書いていますので、またお目通しいただけたらと思います。

本日の評価委員会には、評価指標を入れた中期計画案をお配りしております。学内での議論がし尽くせておらず、一部数字が入っていないところもありますが、概ねこのような指標で到達を測っていきたいと思っております。

ポイントを挙げると、まず教育について、本学がこれまで京都芸大としての独自性や芸術教育なら当たり前だと思ってやってきたことを、改めて見直す必要があると思っております。教育の質の向上や、学修者目線への転換がまだまだできていないところがありますので、ここに注力していきたいと思います。

そしてこれまで、移転に向けて支援や協力をしていただいた企業や団体、個人の方々との繋がりを今後も大切にしていかなければならないと考えています。学内に新しい体制組織を作り、重点的に取り組んでいきたいと思っております。

また、支援や協力を仰ぐためには、まず大学やその活動を知ってもらうという広報の重要性を、この移転準備期間に大変実感しました。移転に際してはまだまだ注目もあり、取り上げていただく機会も多く、それが広報になっていますが、今後はそれが継続する工夫を仕掛けていかないといけないと感じています。

また、公立大学法人京都市立芸術大学の設置団体が京都市であることから、市民の皆様にご理解いただくことも大切です。経常的な財政支援を受けていますので、大学を知っていただくための広報、さらに京都市としっかり意思疎通すること、連携しながら大学運営に努めていきたいということがポイントです。中期計画の詳細は後ほど説明いたします。

●委員長 市から、御意見や補足がありましたらお願いいたします。

△事務局 本日はよろしくお願いたします。私の方から一言お時間頂戴したく存じます。

文化庁の京都移転はもとより、コロナ禍における脆弱性の露見など、この間の様々な社会情勢を受け、文化芸術の振興と発展に果たすべき京都の役割はますます高まっていると実感しております。そのような中であるからこそ、公立大学である京都芸大の果たす役割は非常に大きく、この移転を機に、世界に冠たる芸術大学として、さらなる飛躍を目指し、その存在感を示していかなければならないと考えております。

今回の移転は、単なる大学の移転にとどまるものではなく、文化を基軸としたまちづくりを大きく前進させる起爆剤となるものであり、芸術家を育て、また経済を活性化し、あらゆる社会課題の解決や、持続可能で多様性と包摂性のあるまちづくりの象徴的な取組としたいということを踏まえ、京都市として中期目標を定めました。今回策定いただく計画が、目標達成に向けて着実に取り組んでいただける内容となることを期待するとともに、法が改正され、評価制度の変更がある中で、試行錯誤しながらも充実した計画となるように、本日は委員の皆様

忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。

また今回、中期目標において、「地域連携・社会貢献の推進」を独立した項目として盛り込みました。これに関しては、計画においても、ポリシーの策定や推進のための組織体制を整備すること等盛り込んでいただいています。もちろん、すぐれた教育による人材の輩出という大学の一番の使命を大切にするとともに、今回のキャンパス移転に当たり、地域連携・社会貢献の取組というものは、京都市民が大いに期待しているところだと考えております。大学におかれては、すでに地域や社会と繋がる様々な取組を積極的に進めていただいています。今回の計画案に掲げたポリシーや組織体制の整備等によって、さらに社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組に果敢にチャレンジいただきたいと考えております。

また資産の有効活用についても、地域連携や社会貢献の視点から、ホールをはじめとした施設の一般利用に向けて、前向きに進めていただければありがたいと思っております。こうした取組は、市民に親しまれ愛される芸術大学として、必ずや大学のさらなる発展に繋がるものと考えております。

もちろん京都市としても、組織体制の整備、またその財源について、財政当局や人事当局に、所要の運営費交付金や、人員体制をしっかりと要求して参りたいと考えております。今後とも大学と京都市の間でできるだけ多くの情報を共有し、相談させていただきながら、移転後の京都芸大の取組が、多くの方に認められ評価されるよう、京都市としても全力でサポートして参りたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

●委員長 この後の流れを簡単に御説明いたします。

法人から第3期中期計画案について、大きく3つのグループに分けて説明いただき、その都度、審議をお願いいたします。

今回、新しく項目立てをした「地域連携・社会貢献の推進」については、特に重点的に御意見をいただければと思います。

それでは、法人から、第3期中期計画案について説明いただきます。まず、前文及び大項目第1の「大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」に関して、主な点、特筆すべき点等について、説明をよろしく申し上げます。

<○大学法人 資料1に基づき説明>

●委員長 早速ですが、今の項目について審議してまいります。御意見・御質問のある委員は発言をお願いいたします。

●委員長 それでは私から口火を切らせていただきます。今回から指標が重視され、認証評価でも見ることになるかと思いますが、指標の中に、アウトカム、つまり結果的に出る数値と、アウトプット、つまり努力すれば出せる数値が混ざっています。これはどこでもそうならざるを得ませんが、例えばアウトプットは、P5の指標番号12「キャリアデザインセンターの企画数」、これは40件出そうと思えば努力のみで出せると思います。また、P6の14番・15番、外部発表した件数と科研費の応募件数も、もちろん大変ですが努力すれば達成できます。こういうアウトプットの指標を上げるときには、今までと比べて水準的にどうかという判断が要ると思いますが、第2期までの数字はお持ちでしょうか。

○大学法人 例えば、P5の12番「キャリアデザインセンターの企画数」は、第2期でも40件ほどできています。ただし、非常に頑張ったたくさんやっている状態で、目標値を上げて中身を薄くするよりは、キープすることを目標としています。14番は、本学としては教員が研究成果を外部発表したことを把握しきれておらず、またその努力もあまりせず、教員が自由にやっていました。しかし、自分たちがやっていることを把握していないのは良くないという話をして、教員が100人いて、3件ずつやれば300件、それぞれ研究発表までのスパンが長い方もいれば、短い方もいるということで、仮で記載しています。15番の科研費の応募件数については、第2期比15%増として、年間25件としています。

●委員長 研究成果の外部発表に関しては、第2期に十分にその数を把握し切れていないので、無理がない範囲で出されたということですね。

他の委員の方いかがでしょうか。

●委員 前文を読み、移転後の大学のあるべき姿についての強い思いが出ている文章で、非常に力強く良い前文だと思っております。

第1項の1-(1)-ア-(ア)、(イ)について、学部卒業者数、大学院修了者数という指標があり、これはこれで良いと思いますが、この大学の特徴は少人数教育であり、他の芸術大学等と違うところではないかと思えます。その特徴のある少人数教育に関する指標をもう少し挙げてみてはいかがでしょうか。例えば1人当たりの教職員数や教育研究費、教育資産額などは、定量的に出てくると思います。そのような指標があると、他の大学とベンチマークできます。そうすると、京都芸大は少人数で、学生1人当たりかなりの投入をしてしっかりとした教育をしていることが数字でわかります。大学の定員があり、1人当たりの教育研究費は少人数教育だからこの程度の幅で、資産はこの程度持ち、教職員の数はこの程度にしていくというように考えていくと、大体の収支構造が出てくると思います。そうすると、例えばそこに市として投入しなければならない交付金ほどの

程度か、市のキャパシティもありますので、それぞれの指標をそこからまた逆算すると、指標のありようが出てきて、それが本当に少人数教育としての特徴を持たせていけるのかというようなことを検討できる気がして、そのような指標を作ってみたらどうかと思いました。

また、P4の一番下、教育に必要な環境等の充実に向けた取組について、図書館は非常に大事な環境であるため指標に挙げていると思いますが、文章を読むと、他大学や各種団体・機関との連携を拡充して学んでいこうと書いてあります。その後に地域との連携が出てきますが、それは地域との話で、ここの記載は大学や研究機関等同じようなことをしているところとしっかり連携して自分たちも実力をつけていく、環境を良くしていくということだとすると、図書館だけではなく、後に出てくる21番や22番のような連携件数などの指標も入れてはどうかと思いました。

○大学法人 少人数教育を示す数値について、大学の中での、専攻に対する教員の人数や非常勤講師の配分、また本学では学生の意向に沿って専攻を移ることもあり、それに合わせて案分するということは、学内的にはしておりますが、外に示すことはしていません。実際、例えば受験生に対しても、大学の手厚さを示しやすい数値だと思いますので、また検討させていただけたらと思います。

また、「教育研究に必要な環境等の充実に向けた取組」に他大学や各種団体・機関との連携を拡充と記載している点について、取組件数もありますが、既に連携協定を結んだ企業、大学、研究者等もあり、その件数も今後増えていくと思いますので、件数を数字で出すことも検討させていただきます。

●委員長 委員が言われたのは、教育環境の改善のところに図書館だけを指標としているのが目立つためかと思います。他にいかがでしょうか。

●委員 様々な記念事業に市民の方が集われたということで、市民の方の思いの強さを感じました。京都芸大が、市民の誇りとなる大学に今後なっていただくことを期待しています。

私も少し気になったのが、京都芸大の特色は少人数教育にあると認識してましたので、計画のどこかに記載できれば良いのではないかと思います。1(ア)の文章のどこかに少人数教育を入れるなど、引き続きその特徴を持って取り組んでいただきたいという思いも込めて、意見を述べさせていただきました。

また、今後デジタル技術を活用した教育に取り組まれないとの話を以前されていたように思いますが、計画の中に盛り込まれているのでしょうか。

○大学法人 少人数教育については、P3の第1-1-(1)-ア-(ア)の1行目で

触れております。デジタル技術につきましては、大変重要なキーワードだと思っております、P6に記載しております。

●委員 P6のデジタル技術の基盤強化は、教育ではなく研究の欄に記載されていますが、今は研究の段階ということでしょうか。

○大学法人 教育に関しては、P4の下から2行目「教育研究に必要な環境等の充実に向けた取組」のところに記載しています。

●委員長 おそらく少し慎重に、曖昧に書かれています。具体的に言うと、例えばアプリを使った音楽制作や、美術の描画、またそれとは別に業務システムのデジタル化を進めるなどがあると思いますが、どのようなことを具体的に考えられているのでしょうか。

○大学法人 専攻により内容は違いますが、実際にはデジタルを使った教育はすでに始まっています。しかし、全体的に基盤整備が少し遅れていたところもあるため、それをしっかりとさせて、専攻教育以外の基礎的な部分もしっかり押さえていく必要があると思います。

●委員長 基盤的と言うと、Wi-Fiがあまり通ってない、弱いなどでしょうか。

○大学法人 その点も、この新校舎になってまだ足りない部分があり、順次進めているところです。

○大学法人 本学はもともとデジタル面がとても弱く、コロナによって急速に進んだ面があります。象徴的なものはリモートの授業です。本学は、演奏や制作は対面であることを重視しましたが、教室を移す等の対応により、教室で学科の授業ができなくなり、移転するまで、コロナ禍の間、教室での授業はほとんどリモートに変えました。リモートの授業の導入により、第2期の中に結果的に、期せずしてという面もありますが、教育におけるデジタル技術の導入は大きく進みました。それは他の大学でも行われていることではありますが、今理事長が申し上げたように一部の専攻での取組もあり、音楽では電子音楽、美術ではデジタルアートやメディアアートなどの取組があります。

一方で、例えば本学のデザイン専攻では、最終的には全てパソコンで作りますが、最初に手書きで作るという出だしの部分をととても大事にしています。その辺りをどう融合させていくか、デジタルとの融合が、これから本学の大きな課題になると思いますが、まだ具体的に文言化するところまで至っていないため、基盤

整備としています。今回移転することで、例えば Wi-Fi は全学的に使えるようにして、セキュリティもこれまでよりはるかに強化していますが、ただ新しい建物でトラブルが出てきているので、今それを潰していっており、基盤強化はそのようなところからスタートしています。

●委員長 他にいかがでしょうか。

●委員 色々なイベントが行われ、周りの方の期待も背負われていると思いました。私から2点お尋ねしたいのですが、1点目はキャリア支援について、指標は企画数と相談者数となっていますが、実際の学生のキャリア結果は指標には入らないのでしょうか。難しいのかもしれませんが、いくら相談があっても結局思ったようにいかなかったのでは良くありませんし、教育という点で言うと最終目標はそこではないのかもしれませんが、はっきりした数値ではなくても、指標があっても良いのではないかと思いました。

もう1点は、これも指標に入れても良いのではという点でもありますが、先ほどおっしゃった Wi-Fi の届かないところを潰していつているなど、大丈夫だと思っていたが実際移転してみて充実していなかった、という部分がおそらく出てくると思います。先ほどのグラウンドの話のような、生徒の声をできるだけ吸い上げて潰していくということも特に移転当初には大事なことで、学生・教員からの声を吸い上げて改善点を見つけていく、直すまでには至らないかもしれませんが、見つけていくということは記載されても良いのではないかと思いました。

○大学法人 キャリアの指標については先生方とも色々話し合いをしました。キャリア支援がどのような結果を生んだかという点について、学部や専攻による違いもありますが、例えばコンクールに入選・入賞した数や、就職した人数等、分かりやすいものを指標とすることも考えられると思います。しかし、1つのものを取り上げて指標にすると、どうしてもそれが目標となり一面化していく側面もあり、多様性を教えている大学としてはなかなか難しいという結論になりました。相談者数を上げていくというのは、キャリアデザイン、これはアーティストや音楽家としての支援も就職支援もありますが、学生たちが知らないという状況もまだあります。利用は学生の自主性に任せていますが、大学としてキャリア支援に取り組むなら、もっとたくさんの学生に来てもらいたいと思っています。学生相談室では、メンタル面で色々不調を起こす前に一度全員面談するという取組をしていますが、それにより何かあったときに相談に行きやすくなっています。そのような取組が何かできれば相談者数を上げられるのではないかと考え、15%増を指標としています。

また、学生や地域の意見の吸い上げについて、確かに初年度だけでなく、何ら

かの仕組みを作り、社会共創支援室の機能に入れられればと思いました。

●委員長 他にいかがでしょうか。

●委員 2点ほどあります。1つは、P6の研究支援について、これは「外部資金の獲得増に向けたサポート」にアンダーラインがありますので、係数と獲得率を両方とも上げていくというのは、先生方の獲得に対するモチベーションや成功率を上げていく支援をすることになると思います。ただ、実際に発表される資料には、件数と同時に金額が出ます。近畿の大学のうち何番目かなど、総額が新聞等では批評されます。もしも結果を重視するのであれば、16番目の指標は、現在の獲得金額を基準値として10%程度増額した獲得目標金額を記載することになるかと思います。ただし、獲得増に向けた取組を頑張ることが重要なのであれば指標はこのままで良いと思いますし、獲得の結果を重視するステージに来ているのであれば、指標16番については、総額や金額の方が適切かもしれないと思います。そこで見方、受け止め方が変わってくるだろうと思います。

2つ目に、P6の見出しで「3 その他の目標を達成するためにとるべき措置」の「その他」というのは、言葉としてももう少し考えた方が良かったと思います。国際交流とダイバーシティ、とりわけ女性教員比率を高めようということについてその他の目標で括るのは、あまりポジティブな響きでないと思います。かと言って他に良い言葉も思いつきませんが、「国際交流・大学のダイバーシティの目標を達成するための措置」等中身を入れた見出しとするか、大学を国際水準に引き上げていくために必要など少し大げさな書き方をするか、このままでは消極的でついでのような響きになってしまうので、この見出しは考えた方が良くと思いました。

●委員長 見出し文は考えていただくとして、科研費の獲得について、大学から何かありますでしょうか。

○大学法人 科研費の指標を獲得額にするということについて、応募件数を増やせば獲得率はおそらく下がるだろうという話もあり、目標数値は検討しているところでしたが、獲得額にするかどうかも検討させていただきます。

○大学法人 見出しについて、「その他」というのは京都市の目標の表現を使っていますが、その点はいかがでしょう。

△事務局 必ずしも一致しなければならないわけではありませぬので、計画において具体化していただく段階で、より良い表現で落とし込むということであ

れば、表現は工夫いただければと思います。

●委員長 本学では、科研費の獲得数が増えたのに、獲得額が減りました。小さい金額の基盤研究 Cなどを多く取るよりも、基盤研究 Bや Aなど大きなものを取ることができれば、何十件分にもなることがあります。悩ましい問題ですが。

●委員 皆が応募するため、大きいものは事前に準備して話し合っ、計画を立ててやらないと取れませんので、組織的な研究準備をするという点で大変です。

●委員長 本学もですが、京都市立芸術大学は小さな大学ですので、大きな大学だと件数で稼ぐこともできますが、この程度の規模では言いにくいと思います。金額が大きい、基盤研究 B以上のものを取ることを目指してサポートしていただけたらと思います。

それでは次に、法人から、大項目第2の「地域連携・社会貢献の推進等に関する目標を達成するためにとるべき措置」について、説明をお願いします。

<○大学法人 資料1に基づき説明>

●委員長 それでは審議していきたいと思います。委員がオンラインで参加してくださっています。先ほどの教育研究のところも含めて、何か御意見があったらお願いできますでしょうか。

●委員 ダイバーシティについて、指標として女性教員比率を挙げられています。企業でも女性管理職比率などは一般的ですが、大分色々な視点で多様性を見るようになってきています。大学として、どのような多様性、価値観を大事にするのか、それをどのようなところから習得していくのかという視点で、何か取組等を検討されてはどうかと思いました。例えばグローバル視点を入れるということであればグローバル教員や留学生など、また入山先生がよくおっしゃっている「個人内の多様性」というものもあり、1人1人の多様性をどう評価するか、1人1人の多様性があるとよりダイバーシティの理解が進むこともあるので、例えば学生が多様な能力を持てるような教育ができる等を入れられても良いかと思いました。

また、企業の観点ですが、最近 Well-being という言葉があり、ソーシャル、コミュニティ、キャリアなど色々な要素があるもので、計画案を拝見しているといくつかそのようなものが散らばっていますが、学生の幸福という、単に Happy ということではなく、Well-being という視点でも今後考えられたら良いかと思いました。

●委員長 ダイバーシティの指標について、今委員が御指摘になった点など議論があったと思いますが、御紹介いただけますでしょうか。

○大学法人 女性教員比率は具体的に取り組んでいますので記載しました。それ以外にも、例えば外国籍の方や障害をお持ちの方などの大学への参画についても取り組む必要があるという話はしております。外国籍のみだとかなり減ってしまいますが、本学では海外で学位を取った先生もいますので、そのようなことを見える化するのも良いのではという話もありました。計画案は、今自信をもって取り組んでいる女性教員比率を落とし込んでおります。

Well-being に関して、学内の学生や教職員に対してということもありますが、そもそも芸術が持っている包摂性や豊かさが、社会に対する Well-being となったり、またこれも引越しを契機にというところがありますが、医療機関や福祉施設などからも色々なお話をいただくことがありますので、今後はそのような取組も学外との連携の中で何か見つけていけるのではないかと考えています。

●委員長 できれば、指標ではなくその前の文章表現のところ少し入れられれば、姿勢として見えるだろうと思います。

それでは、大項目の第2の部分に対して、御意見はありませんか。

●委員 地域連携について、意見になりますが3点お話しさせていただきたいと思います。まず1つ目に地域について、私もこの崇仁地域の方々と話す機会が増えまして、お話すると非常に期待されています。実際オープニングのときのお囃子も本当に喜ばれていましたし、期待が大きいので、やはり初めが肝心だと思います。この崇仁地域に越してきたので、特に最初に、地域を大事にして重視していくと今後の連携がスムーズになるのではないかと感じました。先ほどのお話しで、芸大祭など色々取り組まれてるとのことですので、引き続きそのようになれば良いと思います。

2点目に、私自身芸大の隣接地の活用事業者の選定委員をさせていただき、結果共創 HUB 京都コンソーシアムが採択されましたが、とても熱が入っていて、おそらくここにできるものが、将来の芸大にとっても影響を与えたいと思います。特に連携も考えられていますし、また学内に簡単に入れますので、共創 HUB 京都コンソーシアムと話し合いを続けて、これはどうかと思うものは立ち入りできないようにした方が良いと思いますし、学生の安全などもありますので、きっちり連携が必要だと感じました。

最後に、子どもへの芸術教育について、やはり子どものころから芸術に触れているということが、将来的に芸術分野全体の発展に繋がるというのはもう当た

り前のことだと思います。私個人が感じていることですが、色々な施設で、小学生以上というのはかなり多いですが、それ以下の幼児が入れる、ウェルカムと言ってもらえる音楽会やギャラリーなどが、海外に比べて日本は極端に少ないと思います。他の施設でそれを言うとなかなか難しいですが、大学の施設のため幼児も OK の催しが増えたら良いと思います。小学生になるともう興味がない子は参加しないですが、幼児だと親も子も時間がある場合が多く、こういうものをやっているから行こうというのが一番きっかけになるのではないかと思いますので、小学生以上ではないものも増えたら良いと思いました。

意見は3点ですが、もう1点、本日ここに来るときに思ったのが、グーグルマップで京都芸大を検索するとまだ沓掛が表示され、こちらが崇仁の新キャンパスと出てくるので、沓掛が表示されないようにグーグルマップに依頼された方が良いと思います。特に新しい学生などが検索されたときに迷うと思うので、もしそれが残ってしまうなら、ホームページなどにグーグルマップで出る場所と実際の場所が異なるという注意喚起があっても良いのではないかと思います。

○大学法人 いくつかありましたが、最後の子どもたちについては本当にその通りだと思いますし、今後少子化で、芸大を目指す、音楽や芸術を志す人たちを作っていくことは非常に大事だと思っています、特に幼児が来られるようにすると、親も、特に育休を取っている親は時間があったりしますので、散歩がてら来ていただくということは、本当に大切に考えていかないといけないと思います。そのような考え方でいくと、いつでも入れるというよりも、入りやすい、その人たち向けの企画を少しでもやり始めることで何か変わっていくかもしれないと思いました。

●委員長 コンサートに幼児と親を参加させるというのは、将来の芸術家だけでなく、将来コンサートや展覧会を観に来る層を形成することにつながると思います。

他にいかがでしょうか。

●委員 先ほどの委員の意見と重なりますが、地域の連携について、特にこの崇仁地域で、移転の経緯などを伺っていると、間違いなく一番大事なことだと思います。今は移転してすぐなので、学長がおっしゃるように色々な企画で盛り上がり、実際に地域の人にも良かったという実感を持っていると思いますが、その実感が継続して、それがだんだん増幅して行って、長い時間が経っても良かったという気持ちがあり続けることが非常に大事だと思います。それをやっていくにあたり、常設の機関のようなものを作り、地域の人々のニーズを聞き、また大学のニーズも申し上げて、どのような企画を継続的にするかを考え取り組むようなこ

とが必要ではないかと思います。最近の学校では、コミュニティスクールなど地域と連携した形のものを作る取組が進んでいますが、大学もこの地域と協議会やコミュニティのようなものを作り、繋がりを絶やさず、ますます増幅させることを目指すような仕掛けを持つ必要があるのではないかと思います。

もう1つは、社会人や子どもの芸術教育の推進はもちろん大事ですが、その社会人にどのような概念が含まれているかということもありますが、例えば障害のある人など、学生として受け入れる場合も、学生として受け入れられないような障害のある方についても、芸術教育を提供して参加してもらい、その人たちが芸術の恩恵を受け生きがいを感じたり、未来への夢を感じたり、あるいはその人たちが持っている潜在的な芸術力を引っ張り出していき、そして社会全体の力を、まさに火床としての大学の機能を果たしていくということも大事で、この部分にも、ダイバーシティとは違う意味で、障害のある方についても入れてはどうかと思います。

また、これも社会人に含まれているかどうかですが、高齢者というか高齢に向かった中高年というか、よく生涯現役と言いますが、つまり平均寿命が伸びている中で、どうやって生きがいと働きがいを持ちながら人生を全うしていくかということが非常に大きな社会課題になっていて、それを全うしていくために芸術の力は結構大きいと思います。これは生涯教育ということになるかもしれないし、芸術のリスキリングというのではないと思いますが、リカレント教育のようなものに役立つ機能を大学が持っているということは、今まではあまりなかったけれどこれからの大学の1つの役割ではないかという気がします。そのような意味で、この芸術大学でもこれからその機能を果たしていくということを謳い上げてはどうかと思います。指標にする必要はありませんが、考え方や方針、方向性として入れたら良いのではと思います。

○大学法人 障害者や高齢者など、今の学生と世代の違う人たちが大学に入ってくることは、美術も音楽も、例えばワークショップや公開講座など色々なことができますし、国でも大学の中の多様性を広げていくようにという方向性がありますので、私たちもそのようなことをやっていかないといけないと思います。実は、入学者にもかなり年齢幅はあり、数は多くはないですが、そのような方が一緒に授業を受けると、そのクラス全体が豊かになるというか、視点も変わり、学びやコミュニケーションもとても強くなるということがありますので、小さい規模ではありますが、色々な形で、多様な方に学んでいただき、それがまた学生にとっても良い影響となるよう考えていきたいと思います。その点で、先ほどの教員のダイバーシティも進めていかないといけないと思います。

○大学法人 地域とのお話が委員からありましたが、我々が移転して何が変わ

ったかと言いますと、移転する前は崇仁地域といかに連携して良い関係を結んでいくかを考えていましたが、移転すると実は我々はもう地域の一員になります。連携と言うと、こちらと向こうという感じになりますが、もちろんそのような視点も必要ですが、同時にこの崇仁地域の一員であるという認識はとても高まりました。これは移転前からですが、例えばまちづくりのNPOに大学の職員が一緒に入り、この地域のことを考える取組も行っていますし、先日の芸大祭でも学生がそのような会議に出て行って一緒に議論しています。今後我々の目指すところは、大学と地域というよりもむしろ崇仁地域の中にある大学ということで、この地域を牽引していくような役割が求められると思っていますので、指標に書けるようなことではないですが、その辺りを目指したいと思っています。

●委員長 中期計画の中に明記しないとしても、そのような方向性を考えていただけのかと思います。他の委員の方はいかがですか。

それでは次に進みます。大項目第3「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」以降の項目について、まとめて説明をお願いします。

<○大学法人 資料1に基づき説明>

●委員長 いかがでしょうか。

少し気になっているのは、最後の法令遵守のところについて、学生に対するコンプライアンスやハラスメントに対する意識の啓発はどこかでされるのでしょうか。

○大学法人 入学時に全員の研修会を毎年行っております。また、先日も性暴力に対して本学は厳しく対応しているという学長メッセージを発信し、学内でも周知したところです。

●委員 コンプライアンスで言うと、大学の教育や芸術の中にAIなどがどんどん入ってくると、新しい意味での知財権問題が大事になります。学生がよかれと思ってやったことが、新しい知財権に引っ掛かったり、逆もあるかもしれません。これからデジタル化の中では大きな問題になると思うので、コンプライアンスの中でも、そのような意味での知財権教育をしっかりとされたら良いかと思えます。

○大学法人 まさに知財権教育については今検討をしており、できるだけ早く

講座が始められるようにと考えています。

●委員 もう1つ、情報発信については大事で、ここ何年か学長を先頭に本当に発信力が高くなったと実感していますが、このロケーションはとても良く、何しろ5分に1本ほど上下線の新幹線が通ります。そこに乗っている乗客が、全員かはわかりませんが、芸大側に座っている人はキャンパスを見ていると思います。非常に多くの人が大学のキャンパス、建物を見ますので、この大学が何であるかをもっと訴求するようなことをすると良いと思います。なるほど京都はすごい、この玄関の表札のようなところに市立の芸大があるのかとなり、とても効果があると思います。また、芸術大学なので、テラスや屋上のようなところに学生の作品などを月変わりで置くと、あれは何だ、あれは芸術大学の学生が作った作品で、ここに芸術大学があるのだ、となり、京都の芸術大学はここにあり、京都の芸術はここにあり、京都の芸術を発信する火床はここにありということアピールするチャンスになるように思いますので、何かそのようなアイデアを、市の景観条例との兼ね合いもあるとは思いますが、ぜひアグレッシブに、このポジションを活かして全国に発信していただきたいと思います。インバウンドの方たちに向けてはグローバルに発信できますし、無料でとても広告効果があるのではないかと思います。

●委員長 財務関係について、委員いかがですか。

●委員 私が非常に嬉しかったのが、P9の2「業務運営の効率化に関する目標を達成するための措置」の「また」以降で、事務のデジタル化やシステム化という文言を入れていただけたのが非常に嬉しく、京都市の予算に期待するところです。

また、これは十分お考えのうえ表記していると承知の上で触れさせていただきますが、外部資金について、やはり外部資金を得るという意味においての一番の目標は、金額だと思えます。額ではなく件数にされているというのは、深くお考えのうえだと思えますが、やはり額というのは大事だと言うことは申し添えさせていただきます。

あと、非常にこのキャンパスは便利のいいところにあり、ホールや会議室など、色々な方が使いたいと思われると思います。有料で大学の施設を貸されているところは多数あると思いますし、貴学においてもぜひそのような取組を進めていただきたいと思っており、これは3番の有効活用の1つに入るかとは思いますが、今後ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

○大学法人 事務のデジタル化やシステム化を書くときに、委員に今までから

おっしゃっていただいております、これは進めていかないといけないと思っております。

外部資金の目標を金額にするというのは、正直、移転に向けての寄付を集めるときにも大きな金額目標値があり、大変苦しめられたので、今後のことを考えると、もっと小さなものから集めていく、公立大学ですので広く集めるという意味もあって、このような形にしております。

施設の使用について、現在も始まったばかりですが、先々に延ばせないということで色々と検討をすでに始めているところです。

●委員 もう1点、外部資金を得られたものを何に使われたかという情報発信も、ぜひ今後も引き続きしていただきたいと思います。

○大学法人 参考にさせていただき、検討します。

●委員長 残り時間があまりありませんので、まだ発言されていない委員の方々、この件に関して、また全般に関して何かありましたら、ぜひ御発言いただけたらと思います。

●委員 情報発信について、色々な大学を見ていると、学生が多様な媒体で発信することを、大学が組織するような取組があります。広報や先生方の取組だけでは、おそらく現在の状況から取り残されていきます。多様なメディアが利用されており、昔と違って共有できるメディアは少なくなり、SNS 全てやらないと届かないので、大学独力でない取組をぜひ、例えば学生や卒業生などを巻き込んだり、あと私たちが意識しているのは、検索ワードに「市立芸術大学」を入れてもらうよう皆にお願いすれば、学生の日常活動や授業で旅行に行った等が検索に引っかかります。例えばそのような取組をすると、知名度が上がったり、様子が伝わったりしますので、我々がお願いして学生に協力してもらうよう工夫するようなことを、当初計画に掲げるのは難しいかもしれませんが、第3期中にやらないと、他の大学の取組から一回り遅れる形になるのではないかと不安に思いました。

また、蛇足ですが、私の大学でも議論していることで、万が一大きな災害が発生したときに、ここは立地的に、海外圏や国内の旅行者が一時的に、また帰宅難民の人が頼りに来る場所になりかねないと思います。そして、留学生も含めて、場合によっては語学でサポートできる人たちがいると、やはり伝わる場所が安心安全だということで、皆が SNS 等を見ながら外国語が通じるところに集まり始めると、おそらくこの辺りのいくつかの大学は集まる場所になると思います。なので、中期計画で書くことではありませんが、どこかで何か準備や覚悟は

しておかないと、パニックになると思います。

○大学法人 最後の帰宅難民、帰宅困難者について、そこに外国人の方も含めてというのは、すでに京都市の方と協力してしっかり体制を整えていかねばならないという準備に入っています。

また、SNS 等については、実際に大学でも発信していますし、また学生や先生のもを吸収してということを行なっております。さらに学生の力を何かシステム的にするというのはまた検討させていただきます。

●委員長 色々と貴重な御意見をありがとうございました。今までの議論を含めて、大学または委員の方々でどうしても言っておきたいことがあればお願いします。

どうもありがとうございました。本日の議論を踏まえ、大学法人において、この議論を経た修正をお願いできればと思います。今度それが中期計画最終案として出てきますので、次回、第4回評価委員会においてお示しいただき、審議の対象となります。

以上で本日の議事が滞りなく終了しました。進行を事務局にお返しします。

△事務局 長時間にわたり、本当にありがとうございました。今後のスケジュールについては資料 P37 に付けておりますので、どうぞよろしく願いいたします。それでは本日はこれで終了いたします。皆様本日はありがとうございました。